

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第22集

市内遺跡発掘調査報告書1991

1993.3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第22集

市内遺跡発掘調査報告書1991

1993.3

佐久市教育委員会

例 言

1 本書は、平成3年度において個人住宅、民間開発及び公共開発に係る試掘調査並びに立会い調査を実施した市内遺跡発掘調査報告書である。

2 市内遺跡発掘調査の費用は、全額を国庫補助金、県費補助金、市費等の公費により賅った。

3 事務局の構成

◎発掘調査等受託者 教育長 大井季夫

事務局

教育次長 奥原秀雄

埋蔵文化財課

課長 上原正秀

管理係 係長 桜井牧子 (臨時) 浅辺紀美子

埋蔵文化財係 係長 草間芳行 高村博文 林 幸彦 須藤隆司 小林真寿

羽毛田卓也 竹原 学

佐久市開発公社佐久埋蔵文化財調査センター

事務局長 佐々木正泰

所長(兼)埋蔵文化財課長 上原正秀

庶務係長(兼)管理係長 桜井牧子

調査係長(兼)埋蔵文化財係長 草間芳行 三石宗一 (兼)高村博文 (兼)林 幸彦

(兼)須藤隆司 (兼)小林真寿 (兼)羽毛田卓也 (兼)竹原 学

4 調査団の構成

団 長 黒岩忠男

副団長 白倉盛男 藤沢平治

調査担当者 高村博文 林 幸彦 三石宗一 須藤隆司 小林真寿 羽毛田卓也

竹原 学

調査主任 佐々木宗昭

調査員 遠藤しづか 並木ことみ 堺 益子 荒井ふみ子 今井みさ子 小林よしみ

羽毛田香里 橋詰勝子 橋詰けさよ 橋詰信子 堀籠 因 柳沢豊志子

5 本書は、林 幸彦が編集を、各遺跡の執筆は発掘調査担当者が行った。また、掲載図面の作成は、調査主任の佐々木宗昭、調査員の今井みさこ、小林よしみ、柳沢豊志子が担当した。

6 本書掲載の関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管してある。

目 次

I 試掘調査(1~15)・立会い調査(16~54)

1 兜山遺跡 1……………(1)	28 下信濃遺跡 2……………37
2 尼塚遺跡 1……………(3)	29 久瀬添遺跡 1……………38
3 芝宮遺跡群上高山遺跡II……(5)	30 白拍子遺跡群 2……………40
4 長土呂遺跡群上大林遺跡 1…(7)	31 琵琶坂遺跡VIII……………(41)
5 西近津遺跡群三貫畑遺跡 1…(9)	32 琵琶坂遺跡 1……………(41)
6 藤塚遺跡……………(10)	33 宮の上遺跡群 1……………(42)
7 平尾道遺跡……………(12)	34 周防畑遺跡群向畑遺跡 1……(43)
8 西赤座遺跡……………(13)	35 寺畑遺跡群 3……………(45)
9 上鴉沢遺跡群 1……………(16)	36 上砂田遺跡 1……………(46)
10 上曾根遺跡……………(19)	37 戸坂遺跡群 2……………(47)
11 戸屋敷遺跡群……………(26)	38 濃石遺跡 1……………(48)
12 根々井芝宮遺跡……………(27)	39 岩村田遺跡群 2……………(50)
13 立石遺跡 2……………(28)	40 平馬塚遺跡群……………(51)
14 光明寺遺跡 1……………(29)	41 西赤座遺跡……………(53)
15 曾根城遺跡……………(29)	42 木戸平B遺跡……………(54)
16 東曾根遺跡 1……………(30)	43 上の城遺跡群 1……………(56)
17 柳堂遺跡 1……………(35)	44 西赤座遺跡 3……………(57)
18 高師町遺跡群稻荷反り……(36)	45 かぶつた遺跡……………(58)
19 棧敷遺跡 2……………(38)	46 日向屋敷遺跡……………(60)
20 中道遺跡 1……………(39)	47 常田屋敷遺跡群 1……………(62)
21 琵琶坂遺跡……………(39)	48 西芝間遺跡 1……………(63)
22 中原遺跡 4……………(41)	49 宮の西遺跡……………(64)
23 大間遺跡 2……………(42)	50 万助久保遺跡……………(66)
24 大間遺跡 1……………(43)	51 西赤座遺跡 4……………(68)
25 辻遺跡 1……………(44)	52 白拍子遺跡群 1……………(70)
26 棧敷遺跡……………(45)	53 周防畑遺跡群 1……………(71)
27 赤座垣外遺跡 1……………(46)	54 戸坂遺跡群 1……………(73)
付表 1991年度市内遺跡発掘調査一覧表……………(74)	
付図 1991年度市内遺跡発掘調査位置図……………(75)	

1 兜山遺跡 1

試掘調査

所在地 佐久市大字大沢744
758-1
開発主体者 相沢民男 高畑行男
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成3年4月22日
面積 2,078m²
調査担当者 高村博文



兜山遺跡1位置図(1:10,000)

立地と経過

兜山遺跡は、佐久市大沢地籍に所在し、標高730m内外を測る。蓼科・八ヶ岳山麓の東方末端部で、南東傾斜の沢筋に位置する。詳細分布調査では、縄文・古墳～平安時代の遺物が採集されている。

今回、相沢民雄・高畑行男氏により宅地造成事業が計画されたため、試掘調査を実施し、遺構の存在が確認された場合は改めて保護措置を協議することとなった。

調査の結果

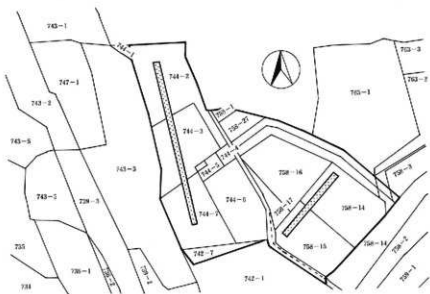
開発対象地にA・Bの2本の試掘トレンチを入れたが、遺構・遺物は確認されなかった。



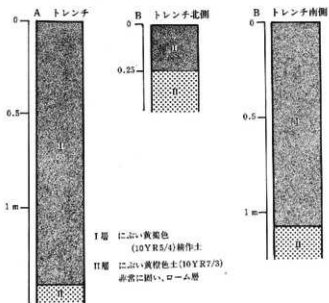
兜山遺跡1近景



兜山遺跡1試掘トレンチ



兜山遺跡1トレンチ設定図(1:1,000)



兜山遺跡1基本土層模式図

2 尼塚遺跡 1

試掘調査

所在地 佐久市大字鳴瀬247

-1他

開発主体者 株式会社エンドレス

プロジェクト

開発事業名 工場建設

調査期間 平成3年5月22日

面積 3,319m²

調査担当者 高村博文



尼塚遺跡位置図 (1:10,000)

立地と経過

尼塚遺跡は、佐久市大字鳴瀬地籍に所在し、標高660m付近を測る。遺跡は千曲川右岸の第2段丘上に位置する。遺跡の状況は佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると縄文～古墳時代の遺物が採集されており該期の遺構の存在が予想される。

今回、(株)エンドレスプロジェクトにより自動車部品工場の建設が計画され、遺跡の破壊が余儀なくなった。そこで、試掘調査を実施し遺構の存在が確認された場合は改めて保護措置を協議することとなった。

調査の結果

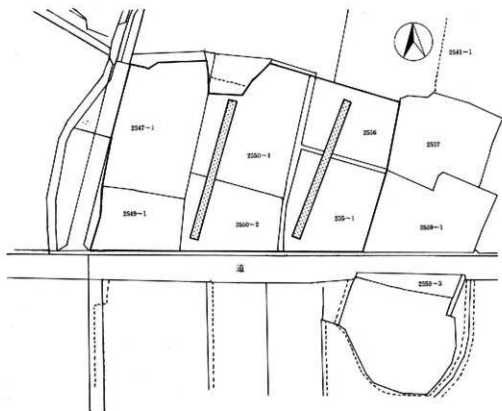
開発対象地域に幅2m20cmのトレンチを2本南北方向に入れたが、遺構・遺物は確認されなかった。



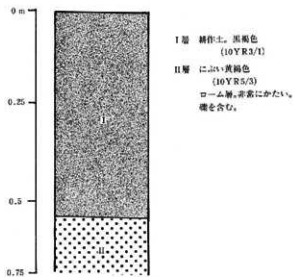
尼塚遺跡近景



尼塚遺跡試掘トレンチ



尼塚遺跡1トレンチ設定図 (1:1,000)



尼塚遺跡1基本土層模式図

3 上高山遺跡Ⅱ

試掘調査

所在地 佐久市大字長土呂字

上高山848-1

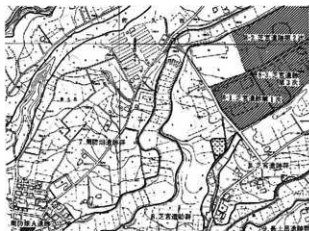
開発主体者 神津鶴雄

開発事業名 貸し工場建設

調査期間 平成3年7月24日

面積 1,657㎡

調査担当者 羽毛田卓也



上高山遺跡Ⅱ位置図 (1:10,000)

立地と経過

上高山遺跡Ⅱは、小諸市境にほどない佐久市の北部に位置する。標高730mを測る。東に隣接する上高山遺跡Ⅰは、R141号バイパス工事に先立ち記録保存調査されており、古墳時代～平安時代の竪穴住居址2棟などが検出されている。また、付近を上信越自動車道が通過し、接近してインターチェンジができるため、アク



上高山遺跡Ⅱ近景

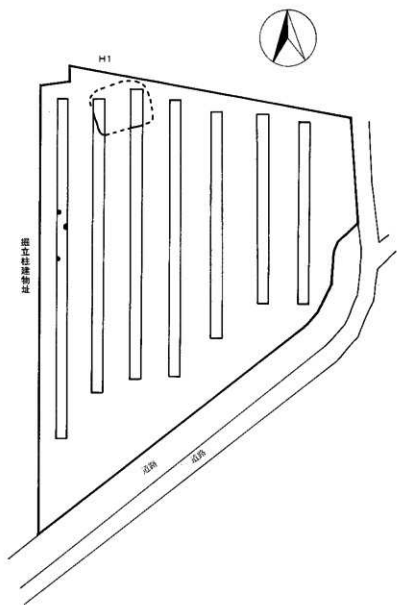
セス道路、流通業務団地、区画整理などの大規模開発が連続し、遺跡の記録保存調査が相次いで行われている。

このたび、神津鶴雄氏が貸し工場を建設することになり、平成3年7月24日に事前の試掘調査を実施した。

調査の結果

調査区の北側に集中して竪穴住居址1棟や掘立柱建物址などの遺構が確認された。

保護協議の結果、削平される開発対象地北側部分約1,000㎡について記録保存のため発掘調査を平成3年8月に実施することとなった。



上高山道跡IIトレンチ設定図 (1:500)

4 上大林遺跡 1

試掘調査

所在地 佐久市大字長土呂字上
大林165-1
開発主体者 セキスイハイム信州
株式会社
開発事業名 住宅展示場・事務所
調査期間 平成3年8月3・5日
面積 2,062㎡
調査担当者 林 幸彦



上大林遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経過

上大林遺跡は、佐久市大字長土呂地籍に所在し、標高726mを測る。東に隣接する上大林遺跡ⅠはR141号バイパス建設工事に伴って発掘調査されており、古墳時代と奈良時代の竪穴住居址が各1棟検出されている。

今回、セキスイハイム信州株式会社が住居展示場兼事務所「ハーモネイトプラザ 佐久」を1~2mの盛土で造成・建築することになった。このため、事前に遺構確認すべく試掘調査を実施した。



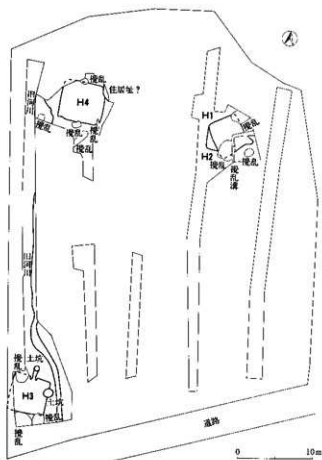
上大林遺跡1近景

調査の結果

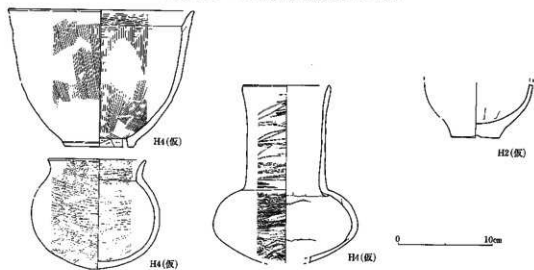
古墳時代後期の竪穴住居址4棟と旧河川跡と思われる溝址が1基検出された。



上大林遺跡1 3号住居址



上大林遺跡1トレンチ設定図・検出遺構実測図 (1:500)



上大林遺跡1出土土器実測図 (1:4)

5 西近津遺跡群三貫畑遺跡 1

試掘調査

所在地 佐久市大字長土呂字三
貫畑1907,1908
開発主体者 東洋開発株式会社
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成3年8月6・7日
面積 2,500㎡
調査担当者 高村博文



西近津遺跡群三貫畑遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経過

三貫畑遺跡1は、佐久市大字長土呂地籍に所在し、御代田方面から南西に伸びる田切り地形の終末部分に当たり、中佐都駅の北側に位置し、標高は700～702m前後を測る。

西近津遺跡群内の過去の調査は、昭和46年度に西近津遺跡、昭和63年度に森下遺跡、平成2年度に三貫畑遺跡の発掘調査が実施されており、弥生時代から平安時代の集落が検出されている。これらのことから、本遺跡群は市内でも有数な複合遺跡であることが知られている。

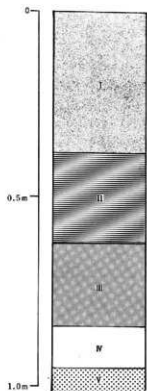
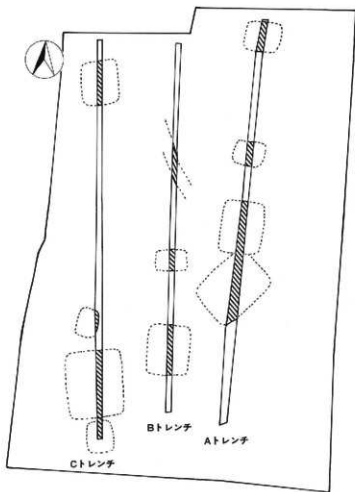
今回、東洋開発株式会社による宅地造成事業にともない、試掘調査を実施することとなった。

調査の結果

開発対象地内に3本のトレンチを重機により試掘した結果、10棟の住居址と思われる落込みが検出された。出土した遺物は、弥生時代後期の赤色塗彩された壺・高坏、甕、須恵器などから弥生時代から平安時代の集落が存在するものと思われる。

検出は地表から90cm下からであることと宅地造成が20cm～1mの埋め土で行うことから遺構は保存されると判断される。

表土除去の際の重機は(株)東洋開発にご協力いただいた。



三貫塚遺跡 I 基本土層模式図

- I層 耕作土。黒褐色土(10YR2/3)
- II層 褐色土(10YR1.7/1)バサバサしている。
ローム粒子を微量含む。
- III層 褐色土(10YR2/2)バサバサしている。
バミスを少量含む。
- IV層 暗褐色(10YR3/4)バミスを多量含む。漸移層
- V層 黄褐色(10YR5/6)

西近津池跡群三貫塚遺跡 I トレンチ設定図・検出遺構実測図 (1:500)

6 藤塚古墳群・藤塚遺跡

試掘調査

所在地 佐久市大字塚原字藤塚
605-30地
開発主体者 与志本林業株式会社
開発事業名 資材置き場・加工場建設
調査期間 平成3年6月18日～9月25日
面積 1,800㎡(18,326㎡)
調査担当者 高村博文



藤塚古墳群・藤塚遺跡位置図(1:10,000)

立地と経過

藤塚遺跡は、佐久市大字塚原・常田に所在し、標高670m付近を測る台地上に位置する。

藤塚遺跡内では、昭和62年度に佐久埋蔵文化財調査センターが行った新町工場用地進入路新設工事に伴う藤塚遺跡の試掘調査で、土師器片が1片出土したのみで、遺構の検出はみられなかった。

今回、与志本林業による資材置場・集配センター建設、第1次開発地域内には、藤塚古墳群31-2号墳・31-4号墳が存在するが、31-2号墳は、石室もしっかりしていることから、緑地として保存することとなり、31-4号墳は、地元の人の話によると剣が出土しており、石室がないことから低墳丘墓の可能性があり確認する必要がある。



藤塚4号墳遠景



藤塚4号墳主体部確認調査近景

以上のような古墳群の存在から開発地域内には、削平された古墳が存在する可能性が高く、試掘調査を実施して遺跡の状況を確認し、調査結果から改めて再協議することとなった。

なお、調査進行中に藤塚4号墳の形状等に前方後円墳の可能性が生じたため主体部存在の有無の確認調査も行った。

調査の結果

調査対象地に重機でトレンチを入れ確認した結果、南方のE区に横穴石室の古墳が2基、北方のB区に住居址と思われる落込みが1基検出された。また、4号墳はこの前方部に張り出しを持つことが判明し、前方後円墳の可能性があることが明らかとなった。

4号墳の円墳墳頂に2×2mのグリットを設定して主体部確認調査を実施した。その結果主体部は発見できず、すでに破壊されている可能性が高いことが確認できた。

7 大塚遺跡群平尾道遺跡1

試掘調査

所在地 佐久市大字中込字平尾
道2958-1-4-5

開発主体者 菊地 昭

開発事業名 テナントビル建設

調査期間 平成3年8月8日

面積 654.8㎡

調査担当者 林 幸彦



大塚遺跡群平尾道遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経過

平尾道遺跡は、中込原の台地東端にあり、標高686mを測る。菊地昭氏のテナントビル建設にあたり、試掘調査を実施した。

調査の結果

東西方向の2本のトレンチいづれからも遺構・遺物は検出されなかった。特に旧建造物の基礎部分の攪乱は著しいものがあつた。

8 西赤座遺跡 2

試掘調査

所在地 佐久市大字岩村田字赤
座垣外3634-1
開発主体者 森角 淳
開発事業名 事務所建設
調査期間 平成3年10月18日
面積 1,441㎡
調査担当者 羽毛田卓也



西赤座遺跡 2 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

西赤座遺跡 2 は佐久市大字岩村田
地籍に所在する弥生時代から中世の
複合遺跡である。立合地点は本遺跡
北端の带状低地に挟まれた標高737
m内外の微高地上に位置する。



西赤座遺跡 2 調査近景

調査の結果

建物造成の際、基礎工事部分につ
いて試掘調査を実施した。その結果、
巾11m以上に及ぶ大溝が検出された。
なお基礎工事最下部は溝の底面に達
していない。遺物は出土しなかった。
所産期は不明だが、現況が水田であ
るため、水田化された時期より古い
ことがわかる。



西赤座遺跡 2 土層

9 鳴沢遺跡群上鳴沢遺跡 1

試掘調査

所在地 佐久市大字根々井字
上鳴沢917-2, 944-2
開発主体者 株式会社ナカジマ
開発事業名 共同住宅建築
調査期間 平成3年11月13日
面積 588㎡
調査担当者 羽毛田卓也



鳴沢遺跡群上鳴沢遺跡1位置図(1:10,000)

立地と経過

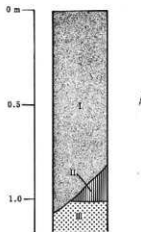
鳴沢遺跡群は縄文～平安時代の複合遺跡である。上鳴沢遺跡1は標高680m内外の湯川河岸段丘上に位置する。今回、株式会社ナカジマが共同住宅新築工事を計画したため試掘調査を行った。



上鳴沢遺跡1近景

調査の結果

弥生時代と考えられる円形周溝墓が検出された。工事区画と照合した結果、基礎工事は遺構面に達しない。深さ120cmまで樹木抜き取りによる攪乱が認められトレンチ部分のみ掘り下げ土層を観察した。遺物は弥生時代の夜・甕・飯等が出土した。



I層 耕作土
II層 黒褐色土(遺構残土)
III層 砂質・ローム(明褐色土)

上鳴沢遺跡1基本土層模式図



上鳴沢遺跡1調査全体図(1:1,000)

10 栗毛坂遺跡群上曾根遺跡 1

試掘調査

所在地 佐久市大字岩村田
 字上曾根38-6
 開発主体者 山口商事有限会社
 開発事業名 貸事務所新築工事
 調査期間 平成3年11月25日
 面積 1,794㎡
 調査担当者 林 幸彦



栗毛坂遺跡群上曾根遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経過

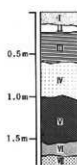
上曾根遺跡1は岩村田地籍の北東部栗毛坂遺跡群内にある。一帯は上信越自動車道や岩村田北部区画整理事業等開発が急である。山口商事有限会社による貸事務所建築も区画整理事業区域内にある。造成工事は盛土がなされるが、事前に試掘調査を実施し遺構確認を行うことになった。



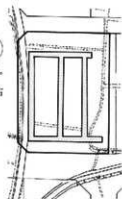
上曾根遺跡1近景

調査の結果

幅2mで東西に2本、南北に3本のトレンチを重機で掘り下げた。浅間第1軽石流までの堆積は厚く1.7mを測る。遺構・遺物とも検出されなかった。



- I層 水田耕作
- II層 水田床土 (5YR3/6)
- III層 暗褐色土 (10YR3/4)
白い軽石 (φ2-4cm) 少量
- IV層 におい黄褐色土 (10YR4/3) 砂崩。
灰白色の軽石 (φ2-4cm) 少量
- V層 黒色土 (10YR2/1)、灰白色の軽石 (φ2-5cm) 少量
- VI層 暗褐色土 (10YR3/3)
灰白色の軽石 (φ2-5cm) 少量
- VII層 明黄褐色土 (10YR6/8)
灰白色の軽石 (φ2-5cm) 少量



上曾根遺跡1トレンチ設定図 (1:1,500) 基本土層模式図

11 戸屋敷遺跡群戸屋敷遺跡1

試掘調査

所在地 佐久市大字安原字戸屋敷1028-1
開発主体者 東京電力株式会社 千曲川電力所
開発事業名 送電鉄塔建設
調査期間 平成3年11月22日
面積 81㎡
調査担当者 林 幸彦



戸屋敷遺跡群戸屋敷遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経過

戸屋敷遺跡群は下平尾から安原に伸びる弥生時代～平安時代の複合遺跡として知られ、戸屋敷遺跡1は、その南端に位置し標高714mを測る。

今回、東京電力株式会社千曲川電力所により送電鉄塔建設が計画されたため、事前に遺構の存在の有無を確認することとなった。

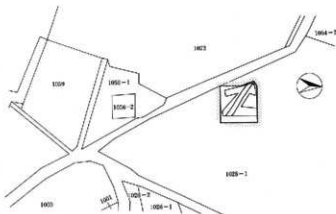


戸屋敷遺跡1近景

調査の結果

面積が狭いため人力により2本の試掘トレンチを掘り下げた。この作業は東電千曲川電力所の職員の方々にご協力いただいた。

地表下20～40cmで北東にのびる幅1mの溝址が確認され、弥生時代後期の土器が出土した。協議の結果記録保存することになった。



戸屋敷遺跡1試掘調査全体図 (1:900)

12 宮の上遺跡群根々井芝宮遺跡

試掘調査

所在地 佐久市大字根々井芝宮
227、226、232-1、223、
横和字湯の上330-1、331-1・13
328、327、330-3

開発主体者 佐久市土地開発公社

開発事業名 宅地造成進入路

調査期間 平成3年12月14・16・17日

面積 945㎡

調査担当者 羽毛田卓也



宮の上遺跡群根々井芝宮遺跡位置図 (1:10,000)

立地と経過

遺跡群は佐久市大字根々井・横和地籍に所在する縄文時代から平安時代の複合遺跡である。試掘調査地点は本遺跡群北端の湯川を臨む標高680m内外の台地上に位置する。今回、佐久市開発公社が行う宅地造成に伴う道路造成により、事前に試掘調査を行うこととなった。



根々井芝宮遺跡試掘トレンチ

調査の結果

当初から遺構が予想されたため対象地の全面を削ぎ、確認作業を行った。その結果、平安時代と思われる住居が2軒、時代不明の土杭が1基、旧道跡が1条検出された。なお旧道跡は現道の下60～70cmの深さに検出されていることや、須恵器の完形杯が出土していることから、かなり古いことが予想される。遺物は弥生時代中期の壺片、平安時代の甕・杯片等が出土した。



根々井芝宮遺跡試掘トレンチ

13 立石遺跡 2

試掘調査

所在地 佐久市大字根岸字荻原
4101、4100-1、4102-2
4105-1、4105-2、4104、4102-1

開発主体者 荻原地区土地整理組合
開発事業名 荻原地区土地整理事業
調査期間 平成3年1月27～29日
面積 4,707㎡
調査担当者 羽毛田卓也



立石遺跡 2 位置図 (1:10,000)

立地と経過

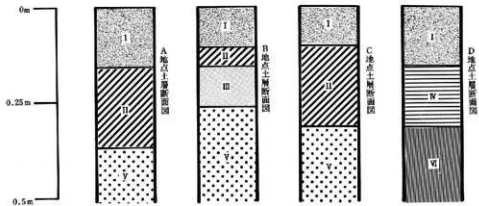
立石遺跡は佐久市大字根岸地籍に所在する古墳時代か中世にかけての複合遺跡である。今回の調査地点は本遺跡西端の標高693m内外の丘陵尾根段丘上に位置する。この同一の尾根上には、方形周溝墓・須恵器窯址・製炭窯址が検出された石附遺跡が存在する。今回の試掘調査は昨年に続くものである。



立石遺跡 2 近景

調査の結果

古墳の存在が予想された最上段部分に、東西方向4本、南北方向5本の試掘トレンチをいれたが、遺構・遺物ともに検出されなかった。また須恵器窯址の存在が懸念されていた東側斜面に3本の試掘トレンチを入れたが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

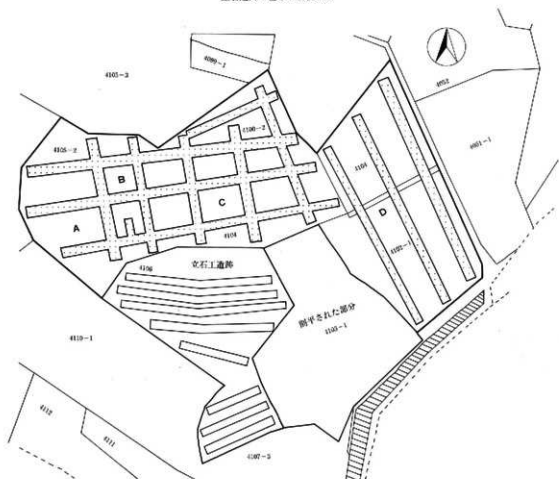


第I層 耕作土。第II層 褐色「粘質土」、炭化材小片微量含む。

第III層 明褐色粘土。第IV層 暗褐色粘質土、炭化材微小片微量含む。

第V層 岩盤・砂質・粘土質。第VI層 暗褐色粘土、砂質。

立石遺跡2 基本土層模式図



立石遺跡2 調査全体図 (1:1,000)

14 光明寺遺跡 1

試掘調査

所在地 佐久市大字安原宇光明寺
35-1、36、50
開発主体者 有限会社 新栄開発
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成4年1月7・8日
面積 2,733㎡
調査担当者 林 幸彦



光明寺遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経過

光明寺遺跡は安原の東端霞川左岸の段丘上にあり、標高703mを測る。県道香坂中込線バイパス工事に伴い、宿上屋敷や光明寺遺跡等が昭和61年度に発掘調査されている。今回、有限会社新栄開発が宅地造成を計画したため試掘調査を実施することになった。



光明寺遺跡1遺景

調査の結果

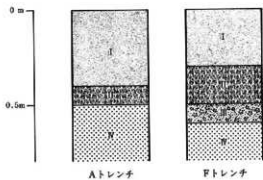
東西方向に6本の試掘トレンチを設定し重機で表土を除去した。

遺構・遺物とも対象地の南西部及び北東部に集中して、その間には沢状の低地が存在する。古墳時代～平安時代の住居址6棟、中世と思われる掘立柱建物址数棟等が検出された。

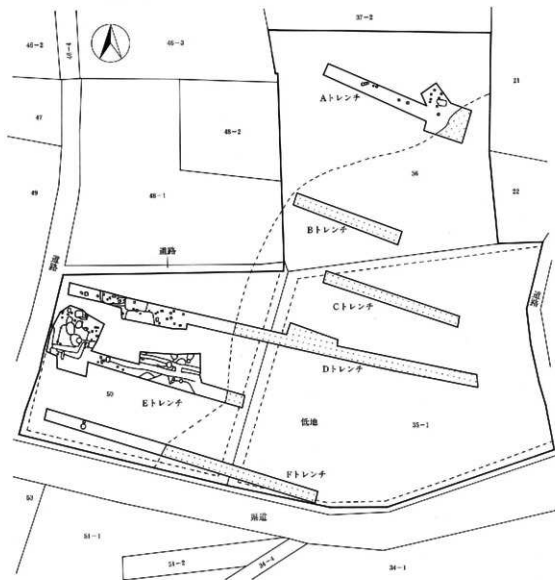
協議の結果表土40cmの上に40～50cmが盛土されることになった。



光明寺遺跡1検出遺構



- I層 耕作土 (7.5YR2/3)
- II層 炭・焼土 (7.5YR2/2)
- III層 川砂(径0.5-1.5mmの横) (10YR4/6)
- IV層 きめ細かな砂の層。にぶい黄褐色土をまだらに含む。(10YR7/4)



光明寺遺跡1 試掘トレンチ設定図(1:500)・基本土層模式図

15 曾根城遺跡

試掘調査

所在地 佐久市大字長小田井字曾根
城182-1、182-3
開発主体者 株式会社サンハウジング
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成4年3月18・19日
面積 3,493㎡
調査担当者 羽毛田卓也



曾根城遺跡位置図 (1:10,000)

立地と経過

曾根城遺跡は佐久市大字小田井地籍に所在する縄文から平安時代にかけての複合遺跡である。今回の調査地点は本遺跡中央南端の標高757m内外の带状低地に挟まれた带状微高地の緩斜面上に位置する。株式会社サンハウジ



曾根城遺跡近景

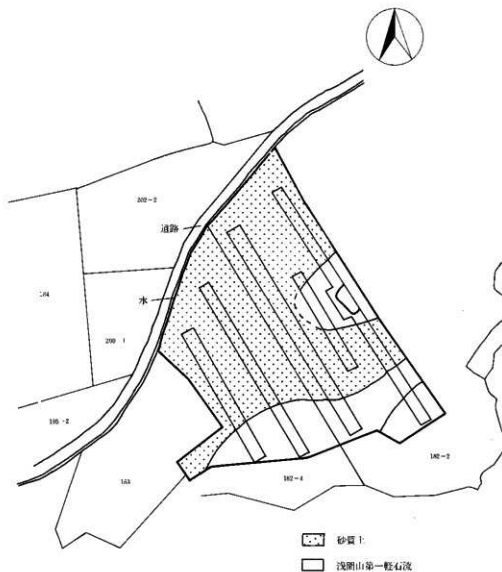


曾根城遺跡試掘トレンチ

ングの行う宅地造成により本遺跡の破壊が懸念されたため、試掘調査により、遺構の確認を行うこととなった。

調査の結果

南北方向に5本のトレンチをいれた結果、一番東端のトレンチ中央部より、奈良時代と考えられる住居址が検出された。表土層30~40cm、盛土40~100mの造成工事のため遺構確認面まで基礎工事は及ばない。



曾根城遺跡トレンチ設定図 (1:1,000)

16 栗毛坂遺跡群東曾根遺跡 1

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田宇東曾
根6-2・3、7-1、9-2

開発主体者 株式会社日本流通リース

開発事業名 貸店舗建築

調査期間 平成3年8月19・23日

面積 6,540㎡

調査担当者 林 幸彦

立地と経過

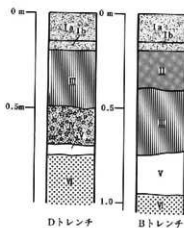
東曾根遺跡1は栗毛坂遺跡群北端にあり、標高746mを測る。付近には発掘調査された西曾根遺跡や上曾根遺跡等が存在する。今回、株式会社日本流通リースが盛土により貸店舗を建築することになったため基礎部分の立会い調査を実施した。

調査の結果

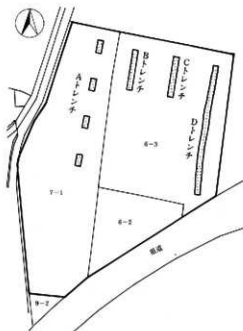
南北方向4本のトレンチいづれからも遺構・遺物は、認められなかった。



栗毛坂遺跡群東曾根遺跡1位置図 (1:10,000)



- Ia層 褐色灰色土 (7.5YR4/1) 水田耕土
- II層 極暗赤褐色土 (5YR2/4)
- II層 褐色土(5YR4/1)砂層(上部細かく、下部大粒)
- III層 黒色土 (7.5YR1.7/1)
- IV層 黒褐色土 (7.5YR3/1)
- V層 褐色土 (7.5YR4/4)
- VI層 明褐色土 (7.5YR5/6)



東曾根遺跡1調査全体図 (1:500)・基本土層模式図

17 岩村田遺跡群柳堂遺跡 2

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田字柳堂
 開発主体者 日本鉄道建設公団北陸新
 幹線建設局
 開発事業名 事務所建築
 調査期間 平成3年8月20日
 面積 20m²
 調査担当者 羽毛田卓也

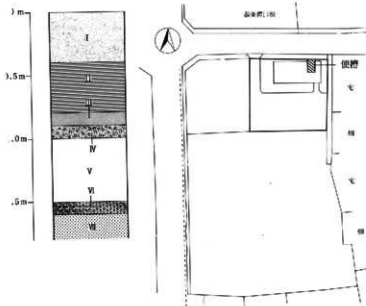


岩村田遺跡群柳堂遺跡 2 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

柳堂遺跡は岩村田遺跡群の南西端に位置し、標高は705mを測る。平成元年度の試掘調査で弥生時代と中世の集落が確認されている。

今回の事務所は永久構造物でなく、建築位置も試掘調査から遺構の存在が薄い部分のため、また、50cm程度盛土されるため便槽部分について工事の際に立会うこととした。



調査の結果

上下2面の水田が検出された。上下2面の水田はともに遺物の出土がなく時代は不明。

- 第I層 埋土。擾乱
- 第II層 黒褐色土 7.5 Y R 3/1粘質、炭化粒子少量含む。水田耕作土
- 第III層 黒色土 7.5 Y R 1.7/粘質、炭化材微小片、炭化粒子少量含む。水田耕作土
- 第IV層 明褐色土 7.5 Y R 5/6砂粒多量含む。水田床土
- 第V層 極暗褐色土 7.5 Y R 2/3粘質、炭化粒子少量含む。水田耕作土
- 第VI層 濃い黄褐色土 10 Y R 5/4粘質、砂粒少量含む。水田床土
- 第VII層 黄褐色粘質ローム

柳堂遺跡 2 立会い調査地点 (1 : 1,000) 基本土層模式図

18 高師町遺跡群稲荷反り遺跡

立会い調査

所在地 佐久市大字新子田字稲荷
反り1374-2、1413-2

開発主体者 佐久市農業協同組合

開発事業名 花き集荷所建築

調査期間 平成3年10月2日

面積 2,441㎡

調査担当者 林 幸彦



高師町遺跡群稲荷反り遺跡位置図（1：10,000）

立地と経過

稲荷反り遺跡は浅間第1軽石流に覆われた南北に細長い田切りの台地上にある。高師町遺跡群の北西端に位置し、標高706m内外を測る。

西へ100mの市道東中学校牧場線の地点は、昭和61年度に高師町遺跡として発掘調査されている。平安時代の竪穴状遺構1基、特殊遺構2基などが検出され、2基の特殊遺構から「井」「七」の墨書土器が5点出土し遺構の特殊性とも合わせて水に深い関わりをもつものとされている。

今回、佐久市農業協同組合により花き集荷所が盛土後に建築されることになり、盛土がなされる前に基礎工事が及ぶ範囲について立会いを行うこととなった。

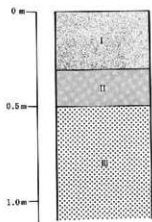
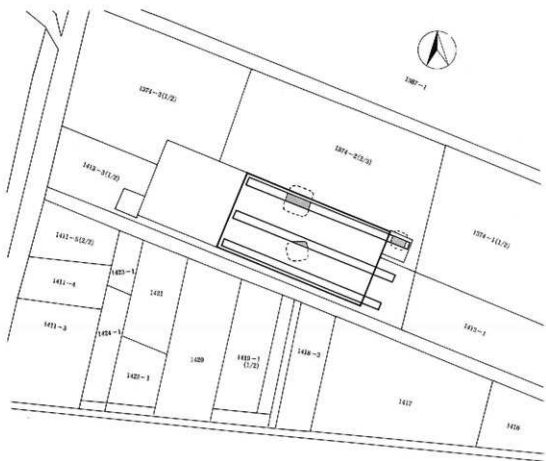


稲荷反り遺跡調査地点風景

調査の結果

東西に3本入った基礎工事部分を精査したところ、B・Cトレンチから平安時代の住居址が3棟確認され、土師器・須恵器片が出土した。

建物の基礎部分は、遺構確認面までは盛土と耕作土の層厚からして及ばない。



- I層 黑褐色土(7.5YR2/2)耕作土
 II層 暗褐色土(7.5YR3/4)
 III層 明褐色土(7.5YR5/6)浅層第1軽石层

稻高反り遺跡調査全体图(1 : 1,000)・基本土層模式图

19 棧敷遺跡 2

立会い調査

所在地 佐久市大字安原宇小平

1505-1、1548-7

開発主体者 株式会社 ナカジマ

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成3年10月2日

面積 1,419m²

調査担当者 林 幸彦



棧敷遺跡 2 位置図 (1:10,000)

立地と経過

棧敷遺跡は湯川の左岸にあって標高722~724mを測る。下位には2段の段丘がみられ、上段には上小平遺跡が下段には下小平遺跡がある。下小平遺跡は昭和55年に発掘調査され、弥生時代~古墳時代の住居址3棟方形周溝墓2基などが検出されている。また、今回の調査地点から南方300mに蛇塚古墳が、北方200mには棧敷古墳が存在する。

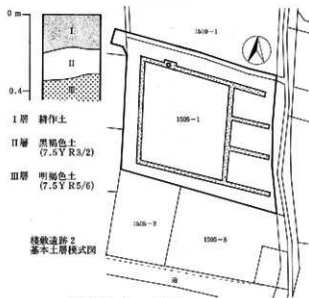
今回株式会社ナカジマが宅地造成を行うことになったが表面での遺物が希薄なため立会い調査とした。

調査の結果

東西3本南北に2本づつ幅2mに渡って表土を除去したが、いづれからも遺物の出土はなく、遺構も検出されなかった。



棧敷遺跡 2 近景



棧敷遺跡 2 トレンチ設定図 (1:1,000)

20 中道遺跡 1

立会い調査

所在地 佐久市大字前山宇中道
136-4
開発主体者 株式会社日本通運
上田支店
開発事業名 事務所及び荷捌所建築
調査期間 平成3年4月5～11日
面積 180㎡(932㎡)
調査担当者 高村博文



中道遺跡1位置図(1:10,000)

立地と経過

中道遺跡1は、佐久市前山遺跡に所在し標高668m付近を測る。遺跡は千曲川と片貝川の氾濫原に位置し、昭和46年度に中道遺跡の発掘調査を実施し古墳時代～平安時代の集落址が検出され、県内でも出土例が少ない三彩陶器が出土している。

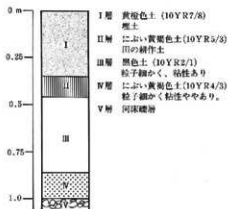
今回、㈱日本通運上田支店が行う事務所・荷捌所建設に伴い立会い調査を実施することとなった。



中道遺跡1近景

調査の結果

建設基礎部分に掘削は、2×2mのマス掘りを深さ1m10cmで22ヶ所を行った。その結果、弥生時代後期の赤色塗彩土器片が出土し近くに遺構の存在する可能性が高いことが判明した。



中道遺跡1基本土層模式図

21 枇杷坂遺跡群琵琶坂遺跡X

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田字枇杷坂91
 開発主体者 北佐久農業高校
 開発事業名 クラブ練習場建築
 調査期間 平成3年4月12日
 面積 150㎡
 調査担当者 羽毛田卓也



枇杷坂遺跡群琵琶坂遺跡X位置図(1:10,000)

立地と経過

枇杷坂遺跡群は田切りに挟まれた標高705～740mの台地上に展開する遺跡群である。佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると弥生時代から中世にかけての包蔵地で、過去数回の調査で弥生時代の集落が検出されている。

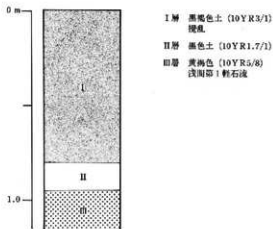
今回、北佐久農業高校が行うクラブ練習所に伴う立会い調査地点は標高720m内外で、本遺跡群中央の登高地上にあたる。



琵琶坂遺跡X近景

調査の結果

建物の基礎工事部分に1.2m×1.2mの試掘坑を4箇所あけたが、遺構・遺物ともに確認されなかった。



琵琶坂遺跡X基本土層模式図

22 中原遺跡 4

立会い調査

所在地 佐久市大字中込字下原

3817-9

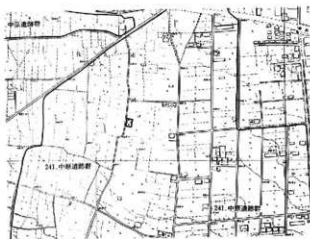
開発主体者 宮沢 俊

開発事業名 宅地造成（個人）

調査期間 平成3年4月16日

面積 139.27㎡(335㎡)

調査担当者 高村 博文



中原遺跡群 4 位置図 (1:10,000)

立地と経過

中原遺跡群 4 は、佐久市大字中込地籍に所在し、標高683m付近を測る。中原遺跡群は千曲川・湯川・滑津川に分断された俗称中込原台地のほぼ中央、滑津川寄りに位置する。

中原遺跡群内では昭和62・63年度に梨の木遺跡の発掘調査が佐久市埋蔵文化財調査センターで実施され、中世の遺構・遺物が検出されている。

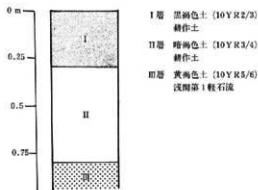
今回、宮沢俊氏による個人住宅建設に伴い立会い調査を実施することとなった。



中原遺跡群 4 近景

調査の結果

住宅の基礎工事の掘り下げを視察したが、遺構・遺物の検出はみられなかった。

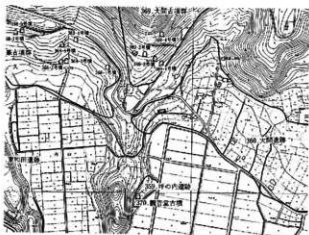


中原遺跡群 4 基本土層模式図

23 大間遺跡 2

立会い調査

所在地 佐久市大字内山宇大間
6476-1
開発主体者 原 信義
開発事業名 宅地造成（個人）
調査期間 平成3年4月22日
面積 100.65㎡(367㎡)
調査担当者 高村博文



大間遺跡2位置図(1:10,000)

立地と経過

大間遺跡2は、佐久市大字内山地籍に所在し、標高713~720m付近を測る。地形は北側に山が存在し、滑津川により侵食された山麓の南傾斜面でかなり急角度である。

大間遺跡は佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると、縄文・古墳~平安時代の遺物が採集されており、近くには大間古墳群が存在する。



大間遺跡2近景

今回、萩原信義氏による個人住宅の建設に伴い立会い調査を実施することとなった。

調査の結果

宅地は、かなり急な南斜面で、平坦部に造成するため北側部分を切り土し、南側に埋め土をする造成工事であった。切り土した部分では表土はほとんどなく、すぐ地山となってしまう、遺物の出土はなく遺構の存在する可能性はうすい。

24 大間遺跡 1

立会い調査

所在地 佐久市大字内山字大間

6473-1

開発主体者 岩崎勝則

開発事業名 宅地造成（個人）

調査期間 平成3年4月30日

面積 90.92㎡(538㎡)

調査担当者 高村博文



大間遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経過

大間遺跡1は、佐久市大字内山地籍に所在し、標高724m付近を測る。地形は北側に山が存在し、滑津川により侵食された山麓で、やや平坦に位置する。

大間遺跡は佐久市遺跡詳細分布報告書によると、縄文・古墳～平安時代の遺物が採集されており、近くには大間古墳群が存在する。

今回、岩崎勝則氏による個人住宅の建設に伴い立会い調査を実施することとなった。



大間遺跡1近景

調査の結果

宅地面を造成の際、土手の土を取って埋め土を行ったが、土を取る際立ち会った結果、遺物の出土はなく遺構の存在する可能性はうすい。

25 辻遺跡 1

立会い調査

所在地 佐久市大字野沢字辻
588-2・3
開発主体者 金井とくよ
開発事業名 宅地造成（個人）
調査期間 平成3年6月5・6日
面積 134.35㎡（640㎡）
調査担当者 高村博文



辻遺跡1位置図（1：10,000）

立地と経過

辻遺跡1は、佐久市大字野沢地籍に所在し、標高672m付近を割る。遺跡は千曲川の氾濫原と思われる、県内でも出土例が少ない三彩陶器が出土した中道遺跡の東側にあたる。

今回、金井とくよさんが行う個人住宅の建設に伴い立会い調査を実施することとなった。



辻遺跡1調査地点近景

調査の結果

宅地建設基礎部分の掘削は幅60cm、深さ25cmほどで掘削する深さが浅いため、遺構検出面に達せず、遺跡が破壊される恐れはなかった。



辻遺跡1調査地点近景

26 棧敷遺跡 1

立会い調査

所在地 佐久市大字安原字棧敷
1532-2、1538-10
開発主体者 白井 操
開発事業名 宅地造成（個人）
調査期間 平成3年6月22日
面積 458㎡
調査担当者 羽毛田卓也



棧敷遺跡1位置図（1：10,000）

立地と経過

棧敷遺跡1は、佐久市大字安原地籍に所在する。棧敷遺跡は、湯川の侵蝕によって形成された標高724mの河岸段丘上面に展開する。

棧敷遺跡は、佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると、平安時代の包蔵地である。また南に棧敷古墳が存在する。この台地の下位には、2段の河岸段丘がみられ、上段には上小平遺跡が下段には下小平遺跡がある。下小平遺跡からは、弥生時代～古墳時代の住居址・方形周溝墓が検出されている。



棧敷遺跡1調査地点近景



棧敷遺跡1調査地点近景

調査の結果

宅地造成の際、基礎工事部分について立ち合った。その結果、遺物・遺構は検出されなかった。

27 栗毛坂遺跡群赤座垣外遺跡 1

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田宇赤座
垣外3626、3628-1
開発主体者 茂木正裕
開発事業名 店舗建築
調査期間 平成3年6月25日
面積 2109.6㎡
調査担当者 林 幸彦



栗毛坂遺跡群赤座垣外遺跡 1 位置図 (1:10,000)



赤座垣外遺跡 1 近景

立地と経過

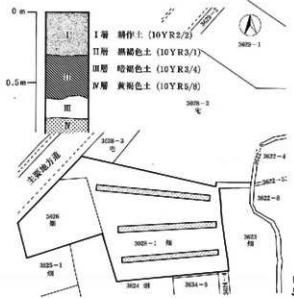
赤座垣外遺跡 1 は、佐久市の北部の栗毛坂遺跡群内南西部にあり標高734mを測る。付近一帯は上信越自動車道インターチェンジや区画整理事業のため実に多くの緊急発掘調査が行われている。平成2年度に発掘調査された赤座垣外遺跡は、東方200mのところにあつて、古墳・奈良・平安時代の住居址17棟、掘立柱建物址5棟等が検出されている。

今回、茂木正裕氏が店舗を建築することになり立会い調査を実施した。

調査の結果

東西に幅2mのトレンチ3本を重機により掘り下げ精査した。

いづれからも遺構・遺物は検出されなかった。



赤座垣外遺跡 1 調査全体図 (1:1,250)・基本土層模式図

28 下信濃石遺跡 2

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田字下信
濃石3362-1・3・4・6・7、
3359-1・4、3363-2
開発主体者 有限会社 新日本開発
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成3年6月5日
面積 2,688㎡
調査担当者 林 幸彦



下信濃石遺跡2位置図(1:10,000)

立地と経過

下信濃石遺跡は湯川右岸の第1河岸段丘上、標高693m内外を測る。湯川右岸の本遺跡の周辺には、上の城遺跡群・岩村田遺跡群・大井城跡などが存在し、昭和48年度上の城遺跡、昭和58年度西八日町遺跡、昭和59年度大井城跡等の発掘調査がなされている。調査の結果、弥生時代中期・後期、古墳時代中期・後期、奈良時代、平安時代、さらには中世にいたるまでの大複合遺跡群であることが判明している。

今回、有限会社新日本開発が宅地を造成することになり、立会った。

調査の結果

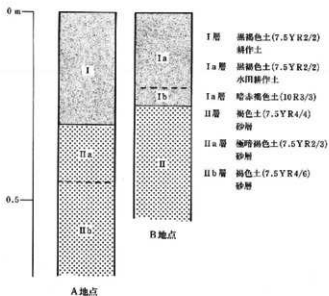
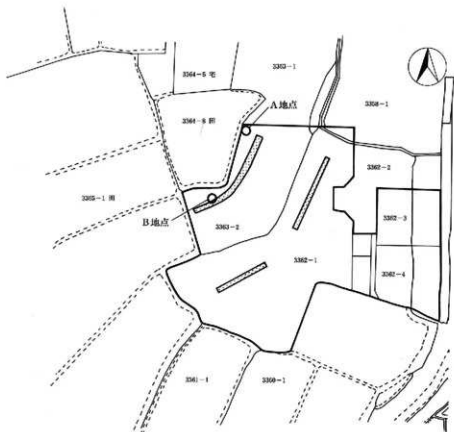
開発対象地内に3本のトレンチを設定し重機により掘り下げた結果、遺構・遺物は検出されなかった。



下信濃石遺跡2近景



下信濃石遺跡2近景



下信浓石造跡 2 調査全体図 (1 : 1,000) ・基本土層模式図

29 久禰添遺跡

立会い調査

所在地 佐久市大字太田部字砂田

161-1

開発主体者 春日 一

開発事業名 宅地造成（個人）

調査期間 平成3年7月4日

面積 125㎡

調査担当者 林 幸彦



久禰添遺跡位置図（1：10,000）

立地と経過

久禰添遺跡は千曲川右岸に沿った河岸段丘上で雫山の北裾に接している。対象地はJ R小海線太田部駅の北東100mの地点で、標高685mを測る。古墳～平安時代に遺物が出土している。

今回、春日一氏が住宅を建設することになり立会い調査を実施した。



久禰添遺跡近景

調査の結果

基礎工事着工の際、深く掘り下げる前に全面を小形ブルドーザーで、耕作土層を削平した。約40cmの地点で黄褐色の遺構構築面と思われる砂層があらわれた。精査したが遺構は確認されなかった。遺物は、土器器甕の小片数点が出土した。



久禰添遺跡村集地近景

30 白拍子遺跡群 2

立会い調査

所在地 佐久市大字取出町字柏作
561-口
開発主体者 竹内武人
開発事業名 宅地造成(個人)
調査期間 平成3年7月10日
面積 738㎡
調査担当者 林 幸彦



白拍子遺跡群 2 位置図 (1:10,000)

立地と経過

調査対象地は取出町の白拍子遺跡群内の東南端にあたり、標高は687mを測る。千曲川と片貝川とに挟まれた微高地上にのっている。詳細分布調査では、奈良・平安時代の遺物が表面採集されている。付近の専立寺で畑を深耕した際に平安時代の土師器坏・甕が出土している。

今回、竹内武人氏が住宅を建築することになり基礎工事着工時に立会った。

調査の結果

対象地は水田であったため地表より30cm下で床土があらわれ、その下方には川砂・礫層がみられた。

遺構・遺物は検出されなかった。



白拍子遺跡群 2 近景



白拍子遺跡群 2 近景

31・32 枇杷坂遺跡群琵琶坂遺跡Ⅷ・Ⅸ

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田字枇杷坂991
 開発主体者 北佐久農業高校
 開発事業名 クラブ室建築 (Ⅷ)
 機具庫建築 (Ⅸ)
 調査期間 平成3年7月15日
 面積 84㎡(Ⅷ)・30㎡(Ⅸ)
 調査担当者 林 幸彦



枇杷坂遺跡群琵琶坂遺跡Ⅷ・Ⅸ位置図(1:10,000)

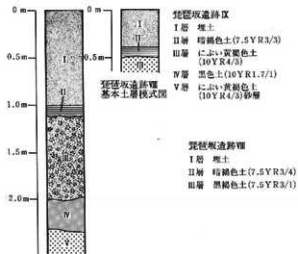
立地と経過

枇杷坂遺跡群は、標高705～740mを測り、田切りの台地上にある。昭和60年に北佐久農業高校内で体育館建築に伴い弥生時代後期の住居址2棟、古墳時代の住居址3棟が調査されている。

今回、北佐久農業高校がクラブ部室の建築およびテニスコートに器具庫を設置することになり、立会い調査を実施することとなった。

調査の結果

両地点ともに遺構・遺物の検出はなかった。



琵琶坂遺跡Ⅷ基本土層模式図



琵琶坂遺跡Ⅷ調査地点



琵琶坂遺跡Ⅸ調査地点遠景

33 宮の上遺跡群1

立会い調査

所在地 佐久市大字根々井宇供養塚185-2

開発主体者 株式会社タイヨーエンジニア

開発事業名 事務所建築

調査期間 平成3年7月19日

面積 57.78㎡

調査担当者 羽毛田卓也



宮の上遺跡群1位置図(1:10,000)

立地と経過

宮の上遺跡群は佐久市大字根々井・猿久保に所在する弥生時代から平安時代の複合遺跡で、帯状低地(田切地形低地)と湯川に挟まれた帯状微高地上に展開する。

調査地点は、本遺跡群の北端で標高683m内外を測る。

今回、株式会社タイヨーエンジニアの事務所建築にあたり立会い調査を行った。



宮の上遺跡群1近景

調査の結果

南北方向2本の掘削坑を精査した結果、遺構・遺物とも検出されなかった。



宮の上遺跡群1調査地点近景

34 周防畑遺跡群向畑遺跡 1

立会い調査

所在地 佐久市大字長土呂字向畑
上垣端・宮の前1150、
1151-1、1153、1226-1、
1225-2、1224-1、1223-1

開発主体者 佐久市

開発事業名 市道1-88、94号道路改良事業

調査期間 平成3年7月24日

面積 357㎡

調査担当者 羽毛田卓也



周防畑遺跡群向畑遺跡 1 位置図 (1:10,000)

立地と経過

周防畑遺跡群は、佐久市大字長土呂地籍に所在する大規模な遺跡群である。向畑遺跡 1 は田切りの地形変化が緩やかになった標高709mの台地にある。周防畑遺跡群内では、今まで数遺跡が発掘調査されており、弥生～平安時代の集落地が検出されている。縄文時代の遺物も出土している。

今回、市道1-88、94号の道路改良事業に伴い立会い調査を実施した。

調査の結果

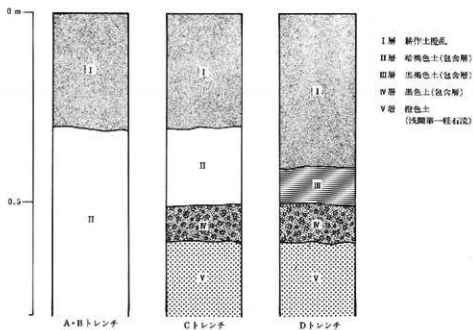
地表下38～40cmで遺物包含層が3号・4号トレンチで確認された。4号トレンチからは平安時代と思われる布目瓦が出土した。



向畑遺跡 1 近景



向畑遺跡 1 調査地点近景



周防畑遺跡群向畑遺跡1調査全体図(1:1,000)基本土層模式図

35 寺畑遺跡群3

立会い調査

所在地 佐久市大字猿久保字下原
648-2

開発主体者 株式会社共栄製作所

開発事業名 工場建築

調査期間 平成3年8月8日

面積 2,103㎡

調査担当者 林 幸彦

立地と経過

寺畑遺跡群は、佐久市大字根々井と猿久保に所在し、弥生時代から平安時代の複合遺跡である。今回の調査地点は、標高693mを測り、本遺跡群の中央南端にあたる。付近には富士塚古墳が所在する。

今回、株式会社共栄製作所が工場を新築することになり、基礎工事の際に立会った。

調査の結果

遺構は確認されなかったが、建物東側基礎部分において、古墳時代～平安時代と思われる須恵器片・土師器片が出土した。

耕作土・遺物包含層は50cmを測り、以下明黄褐色の浅間第1軽石流に達する。



寺畑遺跡群3位置図 (1:10,000)



寺畑遺跡群3近景



寺畑遺跡3調査地点近景

36 上砂田遺跡 1

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田字上砂田1717-16、1717-17
 開発主体者 戸塚石意
 開発事業名 倉庫建築
 調査期間 平成3年8月22・23日
 面積 800㎡
 調査担当者 林 幸彦



上砂田遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経過

上砂田遺跡は、岩村田地籍浅間病院の西方300m、旧中仙堂沿いに位置している。標高は691mを測る。南へ100mに近接して喜平治山古墳さらに南へ300mに弥生時代から平安時代の集落と弥生時代の木棺墓群や古墳群が検出された北西の久保遺跡が存在する。

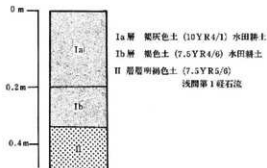
今回、戸塚石意氏が倉庫建築を行うことになり、立会うこととなった。



上砂田遺跡1近景

調査の結果

掘り下げられた基礎部分を精査したところ、遺構・遺物とも検出されなかった。



上砂田遺跡1基本土層模式図

37 戸坂遺跡群 2

立会い調査

所在地 佐久市大字新子田字柳ヶ

反930-3

開発主体者 小平 宝

開発事業名 住宅建築（個人）

調査期間 平成3年9月5日

面積 657m²

調査担当者 林 幸彦

立地と経過

調査地点は、戸坂遺跡群の北端にあたり、標高は704mを測る。

本遺跡群内では、供養塚遺跡、戸坂遺跡第1次、戸坂遺跡第2次等数遺跡が発掘調査されている。縄文時代の竪穴住居址、弥生時代の竪穴住居址・環壕、平安時代の竪穴住居址などが検出されている。また、畑の深耕の際には、多くの土器等が出土するといわれている。

今回、小平宝氏が住宅を新築することになり、立会い調査を実施した。

調査の結果

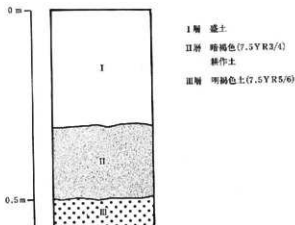
宅地は30～80cm程盛土されており、基礎工事の際立会ったが、遺構・遺物は検出されなかった。



戸坂遺跡群2位置図 (1:10,000)



戸坂遺跡群2近景



戸坂遺跡群2基本土層模式図

38 漬石遺跡 1

立会い調査

所在地 佐久市大字上平尾582、
583-1他

開発主体者 ミヤモリ株式会社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成3年9月5日

面積 8,563m²

調査担当者 羽田田卓也



漬石遺跡1位置図 (1:10,000)

立地と経過

漬石遺跡は佐久市大字上平尾地籍に所在する弥生時代から平安時代の複合遺跡で、舌状に張り出した標高720m内外の湯川段丘上に位置する。今回の試掘調査地点は、本遺跡南端、漬石古墳の東方200mに位置する。ここより東方100mに昭和63年度の調査が行なわれ、弥生時代の住居址が検出された漬石遺跡1が存在する。

今回、ミヤモリ株式会社が宅地造成を行うことになったが、対象地は豚舎であったため深く掘削がくり返されていた。このため立会い調査とした。



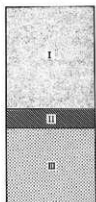
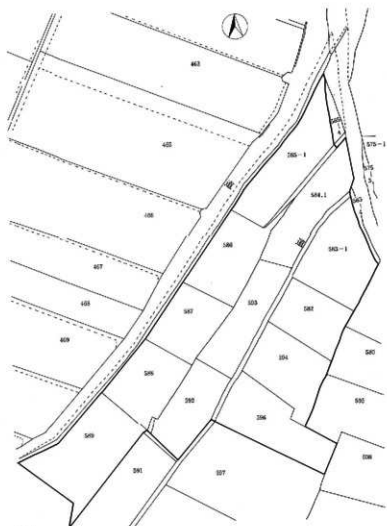
漬石遺跡1調査地点近景

調査の結果

重機により、東西方向に2本のトレンチを、また南端斜面に3×3mの試掘坑をいれた。その結果、遺物・遺構とも検出されなかった。



漬石遺跡1調査地点近景



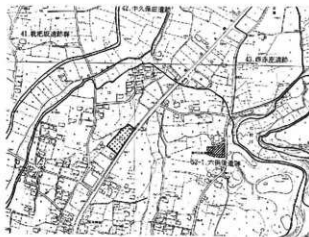
- 第I層 埋土・攪乱・耕作土
- 第II層 褐色土 7.5YR4/6
砂質ローム粒子多量含
- 第III層 橙色土 7.5YR6/6
砂礫主体のローム層

浪石遺跡1調査全体図(1:1,500)・基本土層模式図

39 岩村田遺跡 2

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田字池畑
353-1-10・11他
開発主体者 中沢 正
開発事業名 店舗造成
調査期間 平成3年9月11日
面積 2,724.41㎡
調査担当者 羽毛田卓也



岩村田遺跡群 2 位置図(1:10,000)

立地と経過

岩村田遺跡群は佐久市大字岩村田地籍に所在する弥生時代から中世の複合遺跡で、田切り地形の帯状低地に扶まれた標高710～730mの微高地を中心に展開する。立会い調査地点は本遺跡群北側の帯状低地に位置する。この付近は過去数回に渡り調査され、弥生時代から中世の集落址が検出されている。



岩村田遺跡群 2 調査地点近景

調査の結果

重機により、南北方向に2本の試掘トレンチをいれた。その結果、建物の基礎部分は遺構検出面に達せず、遺構・遺物ともに検出されなかった。

土層は、1層のみで深さ40cmまで水田耕作土であった。



岩村田遺跡群調査地点近景

40 平馬塚遺跡群

立会い調査

所在地 佐久市大字桜井宇平馬塚

921

開発主体者 牧 寛人

開発事業名 位牌堂建築

調査期間 平成3年9月12・13

17～20日

面積 32㎡

調査担当者 高村博文・林 幸彦

立地と経過

平馬塚遺跡群内の調査は、今回が初めてで、桜井地域では唯一の古墳として周知されている平馬塚古墳の調査であった。平馬山延命寺は、寺伝によれば、平安時代に創建され、当時、堂宇すこぶる広大であったが、天正年間に焼失した。これを天正十一年（1583）に平馬城主源実相が、自分の居城の丘の一部に中興開基したものであるという。

今回、牧寛人氏による延命寺北側境内に本道に続いて位牌堂を新築するにともない、平馬塚古墳の一部が破壊されることになり、立会い調査を実施することとなった。

調査の結果

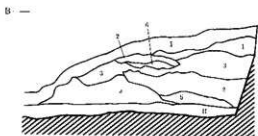
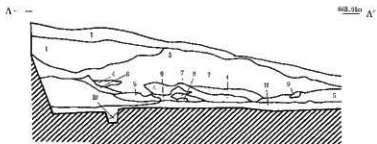
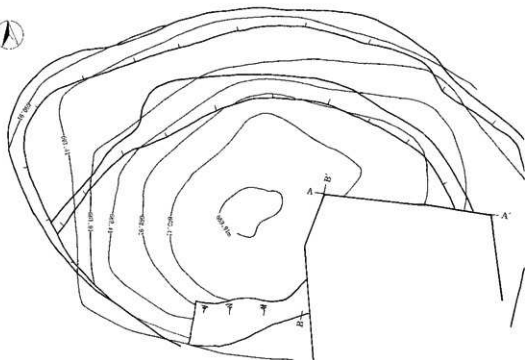
平馬塚古墳の墳丘は、東西径約35m、南北径約23m現地表面から高さ約3mを測る。位牌堂の建設により、この墳丘の南東1/4がカットされ、その断面からの観察により、黒褐色土とロームが混入した黄褐色土により構築されており自然による丘ではないことが判明した。遺物として、混入土器の縄文かあるいは弥生土器と思われる小片が1片出土したのみであること、また、古墳の研究者によると構築されている土層から新しい古墳の構築方法と異なることがわかった。従来古墳とされていたが、また、別の角度からその性格を見直す必要も生じてきた。しかし、主体部と思われる中心部分は調査がなされておらず、古墳の可能性がなくなったことにはならない。



平馬塚遺跡群位置図(1:10,000)



平馬塚遺跡群調査地点近景



- 第1層 黒褐色土(10YR2/3)現状土。
 第2層 黒色土(10YR2/1)粘質強(田表土)。
 第3層 黒褐色土(10YR2/2)粘質強、砂子稠密。
 第4層 暗褐色土(10YR3/4)II層と黄色ロームの混合土。
 第5層 黒色土(10YR2/1)II層が大部分を占めるが、黄色ロームを少量含む。
 第6層 黒褐色土(10YR2/2)II層より黄色ロームブロックが多く含まれる。
 第7層 黒褐色土(10YR2/2)III層より黄色ローム砂子が多く混入する。
 第8層 黒褐色土(10YR2/2)IV層より黄色ロームが主体で、少量の黒土混入する。
 第9層 黒褐色土(10YR2/2)IV層より黄色ロームの含有が多い。
 第10層 黒褐色土(10YR2/2)IV層より黄色ロームブロックが多く含まれる。
 第11層 黒褐色土(10YR2/2)IV層とほぼ同じ。
 第12層 黒色土(10YR2/1)II層とほぼ同じであるが、ロームを若干含む。

平島環濠跡群調査全体図(1:200)・土層実測図

41 西赤座遺跡 1

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田西赤座3,638-1・2・3

開発主体者 学校法人 佐久学園

開発事業名 学生寮建設

調査期間 平成3年9月27日

面積 296.81㎡

調査担当者 高村博文

立地と経過

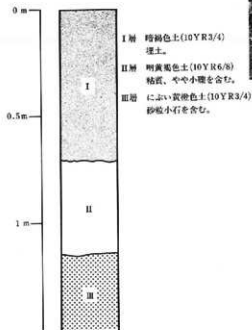
西赤座遺跡は、佐久市大字岩村田地籍に所在し、標高734~737m内外を測る。付近の六供後遺跡、芝間遺跡、柳田遺跡、上久保田向遺跡、曾根新城遺跡、赤座垣外遺跡等が佐久



西赤座遺跡1位置図(1:10,000)



西赤座遺跡1調査地点近景



西赤座遺跡1基本土層模式図

市教育委員会、佐久埋蔵文化財調査センターにより調査され、縄文・古墳・奈良・平安時代の遺構が検出されており、また、長野県埋蔵文化財センターが上信越高速道路建設にともない、栗毛坂遺跡A・B・C・Dを発掘調査し、縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代、中世の遺構が検出されている。

今回、学校法人佐久学園による学生寮建設にともない、立会い調査を実施することとなった。

調査の結果

基礎工事に立会ったが、遺構・遺物はみられなかった。

42 木戸平B遺跡

立会い調査

所在地 佐久市大字香坂
開発主体者 日本道路公団佐久工事事務所
開発事業名 八風山トンネル工事排土盛土
調査期間 平成3年10月2日
面積 約3,300㎡
調査担当者 林 幸彦
立地と経過



木戸平遺跡B位置図（1：10,000）

木戸平遺跡Bは、香坂川に向けて伸びる舌状の台地上にあり、920m～940mの標高を測る。縄文時代中期を主とした遺物が表面採集されている。付近には、木戸平A遺跡、吹付遺跡、曲尾遺跡などが分布している。上信越自動車道工事に関わる長野県埋蔵文化財センターの調査で、吹付遺跡より縄文時代中期末～後期初頭の集落址が検出されている。



木戸平遺跡B調査地点近景

今回、日本道路公団佐久工事事務所が地元要望により、畑に八風山トンネル工事の排土を盛土することになり、事前に長野県埋蔵文化財センターと共に立会って、遺構の有無を確認した。

調査の結果

対象地は、沢に向けた斜面であり遺構は検出されなかった。



木戸平遺跡B調査地点近景

43 上の城遺跡群 1

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田字観音堂

2,095-1

開発主体者 中澤久夫

開発事業名 共同住宅建築工事

調査期間 平成3年10月14日

面積 749.27㎡

調査担当者 羽毛田卓也



上の城遺跡群 1 位置図 (1:10,000)

立地と経過

岩村田遺跡群は佐久市大字岩村田地籍に所在する弥生時代から中世の複合遺跡である。立合地点は本遺跡群南西端の帯状低地の挟まれた標高700m内外の微高地上に位置する。

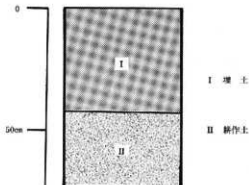
今回、中澤久夫が共同住宅を建築することになったため、工事着工時に立会いを実施した。



上の城遺跡群 1 調査地点近景

調査の結果

工事着工の際、基礎工事部分について立会った。その結果、遺物は確認されなかった。なお、基礎工事最下部は遺構確認面まで達していないため、遺構の有無は確認できなかった。



上の城遺跡群基本土層模式図

44 西赤座遺跡3

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田字黒地

蔵159-1、160-1

開発主体者 渡辺春吉

開発事業名 店舗用地造成

調査期間 平成4年1月21日

面積 2,338.4㎡

調査担当者 林 幸彦



西赤座遺跡3位置図(1:10,000)

立地と経過

西赤座遺跡は、佐久市岩村田地籍に所在し、弥生時代から平安時代さらに中世にかけての複合遺跡である。対象地は、南北に細長い低地で現在水田である。標高は、733mを測る。

今回、渡辺春吉氏が店舗用地を造成することになったので立会った。



西赤座遺跡3調査地点近景

調査の結果

造成は約50cmほどの盛土をして行われる。南北に2本、東西に3本のトレンチを入れ精査をしたが、遺構・遺物は検出されなかった。浅間第1軽石流の上部層は、ほとんど削平されており、水田耕作土および水田床土直下に浅間第1軽石流がみられる傾向が大部分を占める。



西赤座遺跡3調査地点近景

45 坪の内遺跡群かぶつだ遺跡

立会い調査

所在地 佐久市大字根岸字かぶつだ3433-1外19筆
開発主体者 ミツヤホーム株式会社
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成3年11月7・8日
面積 8,682㎡
調査担当者 羽田卓也



坪の内遺跡群かぶつだ遺跡 (1:10,000)

立地と経過

坪の内遺跡群は、佐久市の根岸地籍に所在する縄文時代から平安時代の複合遺跡である。今回の調査地点は、東に向けてせり出す台地上で標高660m内外を測る。

隣接する椋名遺跡群からは、御子柴系の大形槍先形尖頭器が出土している。西方に見上げる尾根上には、前方後方形をした龍の峯1号～4号墳が分布している。さらに、北方500mには、弥生時代～平安時代の集落址が発掘調査された舞台場遺跡が所在する。

今回、ミツヤホーム株式会社が宅地造成を計画したので工事着工時に立会い調査を実施した。

調査の結果

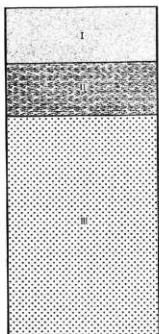
台地上に3本のトレンチと11個のテストピットを入れた結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。



かぶつだ遺跡遠景



かぶつだ遺跡調査近景



- I層 耕作土
- II層 暗褐色土 砂礫を多量に含む。
(粘土質)
- III層 砂質・砂礫質の硬、菜地岩。
(相浜層)



かよつだ遺跡調査全体図 (1 : 1,500)・基本土層模式図

46 日向屋敷遺跡

立会い調査

所在地 佐久市大字根々井字大塚
越1194-1

開発主体者 ミヤモリ株式会社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成3年11月19日

面積 1,013㎡

調査担当者 羽毛田卓也



日向屋敷遺跡位置図 (1:10,000)

立地と経過

日向屋敷遺跡は佐久市大字根々井地籍に所在する弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡である。立会い調査地点は本遺跡群中央北端の標高670m内外の湯川河岸段丘上に位置する。今回、ミヤモリ株式会社の行う宅地造成により遺跡の破壊が懸念されたため立会い調査を行うこととなった。



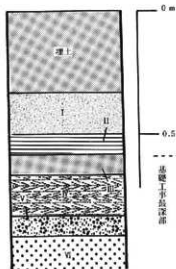
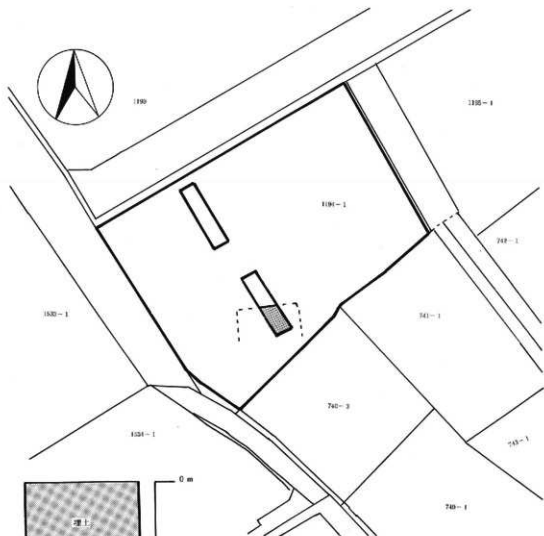
日向屋敷遺跡調査地点近景

調査の結果

造成地内に3本の確認トレンチをいれた結果、第2号トレンチにおいて弥生時代後期の住居址が検出された。工事図面と照合した結果、基礎工事が遺構面に達しないため、トレンチ部分のみ再度掘り下げ土層を観察した。遺物は弥生時代後期の壺・甕・甌・土製紡錘車・石鉄等が出土した。



日向屋敷遺跡調査地点近景



- I層 礫作土
 - II層 暗褐色土砂礫を多量に含む(粘土質)水田床土
 - III層 黒色土、砂質
 - IV層 黒色土、パリスを含む住居址土
 - V層 暗褐色土ローム含む住居址床
 - VI層 明黄褐色土砂質ローム
- 基礎工事点深部

日向遺跡調査全体図(1:500)基本土層模式図

47 常田居屋敷遺跡群 1

立会い調査

所在地 佐久市大字常田字南道溝

465-1、465-2、464

開発主体者 西軽井沢開発株式会社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成3年12月3日

面積 3,298㎡

調査担当者 林 幸彦

立地と経過

常田居屋敷遺跡群は、佐久市大字常田・塚原に所在し、佐久市遺跡詳細分布調査報告書には弥生時代～平安時代の複合遺跡とされている。

常田居屋敷群内には、家地頭古墳群や大豆塚古墳群などの古墳群も所在する。また、東方800mには発掘調査された下大豆塚古墳群や東池下1号墳など円墳がある。

今回、西軽井沢開発株式会社の宅地造成計画地内には、高さ5mを測る円形の高まりがみられ、古墳である可能性もあるために工事着工時に立会うこととなった。

調査の結果

円形の高まり部分に東西方向3本、他の対象地に南北方向3本のトレンチを入れた。高まりは、塚原泥流の残丘であり自然地形であることが判明した。他のトレンチからも遺構の検出はなかった。



常田居屋敷遺跡群1位置図 (1:10,000)



常田居屋敷遺跡群調査地点遠景



常田居屋敷遺跡群1調査地点近景

48 栗毛坂遺跡群西芝間遺跡 1

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田字西芝
間3791～6
開発主体者 中澤厚史
開発事業名 共同住宅建築
調査期間 平成3年12月24日
面積 988㎡
調査担当者 林 幸彦

立地と経過

栗毛坂遺跡群は、佐久市岩村田地籍にあり、市内でも開発が集中している地帯でもある。付近の芝間遺跡、柳田遺跡、赤座垣外遺跡が佐久市教育委員会・佐久埋蔵文化財センターによって発掘調査され、また、上信越自動車道工事に伴い長野県埋蔵文化財センターにより、栗毛坂遺跡A・B・C・Dが発掘調査されている。西芝間遺跡1は、標高743mを測る。

今回、中澤厚史氏が共同住宅を建築することになり基礎部分について立会った。

調査の結果

南北に2本、東西に1本のトレンチを精査したところ、地表下60～80cmで、東西トレンチ内1棟、西側の南北トレンチ内で2棟の平安時代の住居址と思われる遺構を確認した。



栗毛坂遺跡群西芝間遺跡1位置図(1:10,000)



西芝間遺跡1調査地点近景



西芝間遺跡1調査地点近景

49 宮の西遺跡

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田字東長
塚1851
開発主体者 中澤良三、中澤ゆき子
開発事業名 共同住宅建築
調査期間 平成3年12月24・25日
面積 978㎡
調査担当者 林 幸彦



宮の西遺跡位置図 (1:10,000)

立地と経過

宮の西遺跡は、岩村田の若宮神社の西方200mに位置し、標高692mを測る。佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると弥生時代～平安時代・中世の遺物が表面採集されている。

南に隣接して弥生時代～平安時代の大規模な集落址が埋蔵されている一本柳遺跡群が所在する。古墳も南100mに樋田古墳、西400mに喜平治山古墳、北400mに国蔵山古墳が分布している。

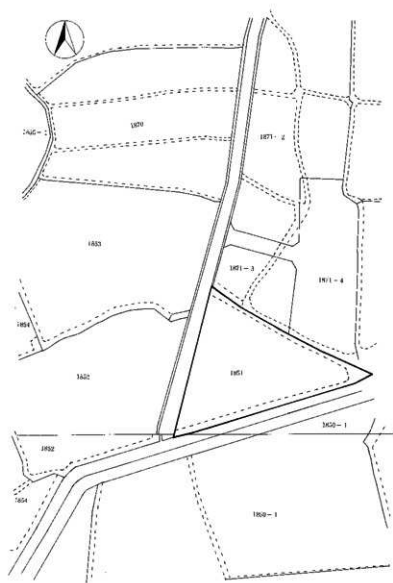


調査の結果

基礎工事により掘削された地点の土層は、盛土40～50cm、水田耕作土30cmがみられ、その下部には前川の氾濫源にあたり、砂層がみられた。

遺構・遺物は検出されなかった。





宮の西遺跡調査全体図(1:1,000)

50 万助久保遺跡

立会い調査

所在地 佐久市大字下平尾字上の
平・北山寺2383-1外24筆
開発主体者 佐久市土木課
開発事業名 市道7-2号線道路改良
調査期間 平成4年1月16日
面積 1,560㎡
調査担当者 小林真寿



万助久保遺跡位置図（1：10,000）

立地と経過

万助久保遺跡は、平尾山の西裾が平垣地に接する台地上にあり、標高740～770mを測る。

付近は、上信越自動車道に関わる発掘調査が行われており、丸山遺跡、北山寺遺跡などが発掘調査されている。古墳時代～平安時代の住居址が検出され、縄文時代～平安時代の遺物が出土している。

今回、高速道関連事業の市道7-2号線の道路改良事業が行われることになり、工事着工時に立会った。



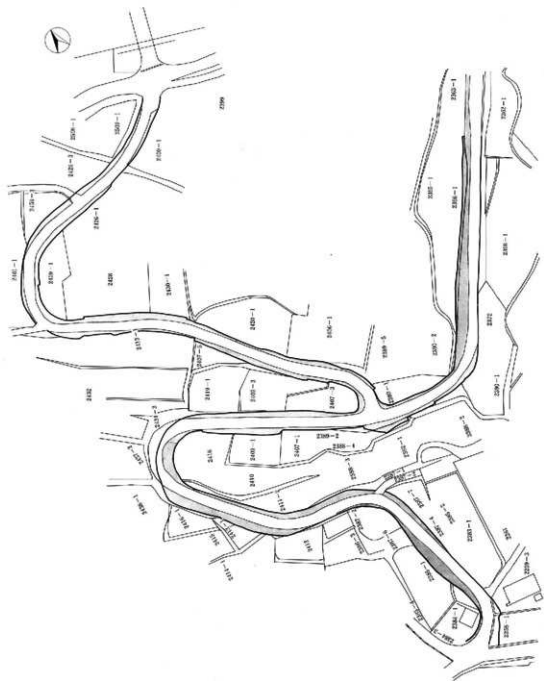
万助久保遺跡調査地点近景

調査の結果

対象地は尾根斜面にあたるため遺構・遺物は確認されなかった。しかし周辺に分布する古墳群の存在から、調査地周辺に未確認の古墳が存在する可能性は強い。



万助久保遺跡調査地点近景



万助久保遺跡調査全体図 (1 : 1,500)

51 西赤座遺跡4

立会い調査

所在地 佐久市大字岩村田字赤座
 垣外3634-1外
 開発主体者 佐久建設事務所
 開発事業名 県単 街路事業(佐久市
 住吉町)
 調査期間 平成3年11月26日
 面積 1,000㎡
 調査担当者 林 幸彦



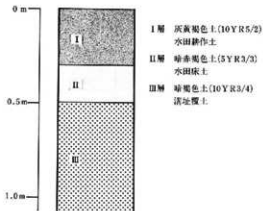
西赤座遺跡4位置図 (1:10,000)

立地と経過

西赤座遺跡は、佐久市岩村田地籍に所在し、弥生時代から平安時代、さらに、中世にかけての複合遺跡である。西赤座遺跡4は、学校法人佐久学園の学生寮(西赤座遺跡1)、および、森角淳(西赤座遺跡2)のすぐ西に隣接している。標高は737mを



西赤座遺跡4調査地点近景



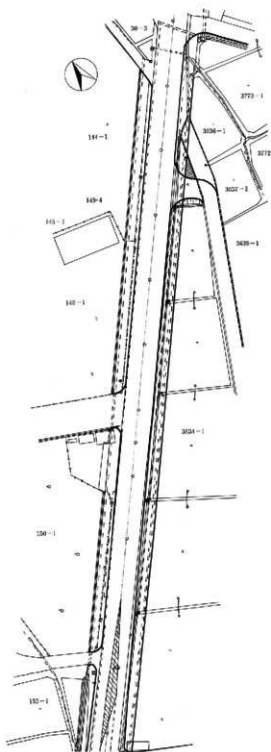
西赤座遺跡4溝址土層模式図

測る。

今回、佐久建設事務所が歩道工事を行うため立会った。

調査の結果

約1.5m幅で黄褐色土(浅間第1軽石流)まで掘り下げられていたので精査したところ、対象地南側において幅約10mの溝址が確認された。赤座垣外遺跡で調査されたM13号溝址につながる可能性がある。



西赤座遺跡4調査全体図 $\frac{3}{3500}$

52 白拍子遺跡群 1

立会い調査

所在地 佐久市大字取出字柏作

565-1・5・7、564-1・5

566-1

開発主体者 株式会社 平和不動産

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成4年3月5日

面積 1,234㎡

調査担当者 小林真寿



白拍子遺跡群1位置図(1:10,000)

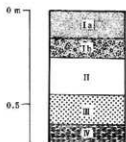
立地と経過

白拍子遺跡群1は、本遺跡群の東南端にあたり、標高は687mを測る。千曲川の左岸に沿って伸びる帯状微高地上にのっている。西方700mには、千曲川と並走する片貝川がある。

今回、株式会社平和不動産が宅地造成を行うことになったので立会い調査を実施した。

調査の結果

対象地は千曲川の氾濫源にあたり、砂礫層により構成される不安定な地盤に立地している。そのため遺構・遺物ともに確認されなかった。



Ia層 水田耕土

Ib層 水田床土

II層 黒褐色土(10YR3/1)

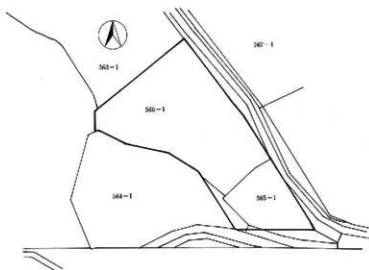
粘質土

III層 灰黄褐色土(10YR5/2)

粘質土

IV層 濃い黄褐色土(10YR6/4)

砂層



白拍子遺跡群1調査全体図(1:1000)・基本土層模式図

53 周防畑遺跡群 1

立会い調査
 所在地 佐久市大字長土呂字東
 近津1174外
 開発主体者 佐久市土木課
 開発事業名 市道1-43号線道路改良事業
 調査期間 平成4年1月17日
 面積 250㎡
 調査担当者 高村博文



周防畑遺跡群1位置図(1:10,000)

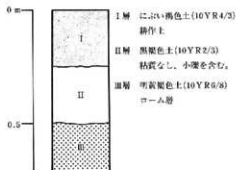
立地と経過

周防畑遺跡群は、佐久市大字長土呂地籍に所在し、標高714m内外を測る。遺跡は、御代田方面から南西に幾筋も放射状に伸びる田切り地形台地の一つに存在する。付近では、西近津遺跡・森下遺跡・若宮遺跡などの発掘調査が行われ、弥生・古墳・奈良・平安時代の遺構が検出されている。

今回、佐久市土木課が行う、市道1-43号線道路改良工事にともない工事着工時に立ち会い調査を実施することとなった。



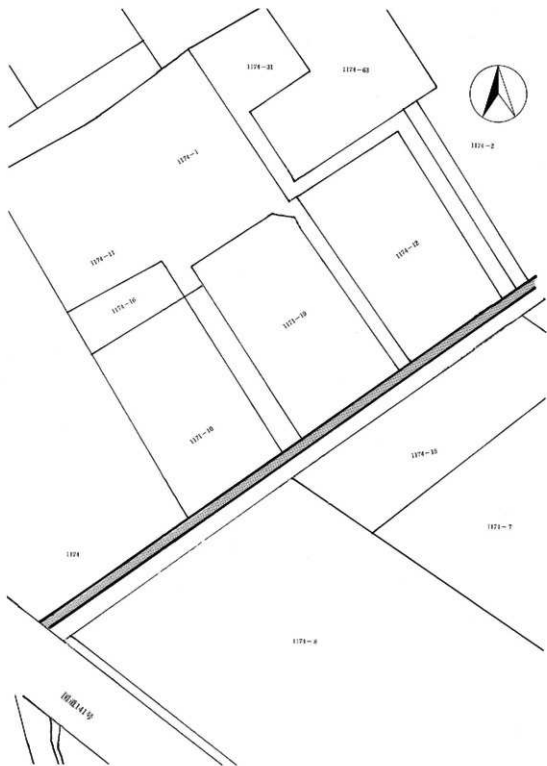
周防畑遺跡群1調査近景



周防畑遺跡群1基本土層模式図

調査の結果

道路拡幅のため幅60cm、深さ60cmの側溝工事を実施したが、遺構・遺物はみられなかった。



周防細道群1調査全体図 (1:1,000)

54 戸坂遺跡群 1

立会い調査

所在地 佐久市大字新子田字柳
反り920-2
開発主体者 中條勝良
開発事業名 住宅建築（個人）
調査期間 平成3年5月7・8日
面積 430㎡
調査担当者 高村博文

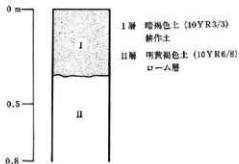


戸坂遺跡群1位置図（1：10,000）

立地と経過

戸坂遺跡群は、佐久市大字新子田地籍に所在し、標高703～706m内外を測る。遺跡は、志賀川と香坂川の合流地点の河岸段丘上に位置し、昭和46年と昭和59年に戸坂遺跡群内で発掘調査が行われ、縄文・弥生・平安時代の集落が発見されている。

今回、中條勝良氏が有り、個人住宅建設にともない立ち会い調査を実施することとなった。



戸坂遺跡群1基本土層模式図

調査の結果

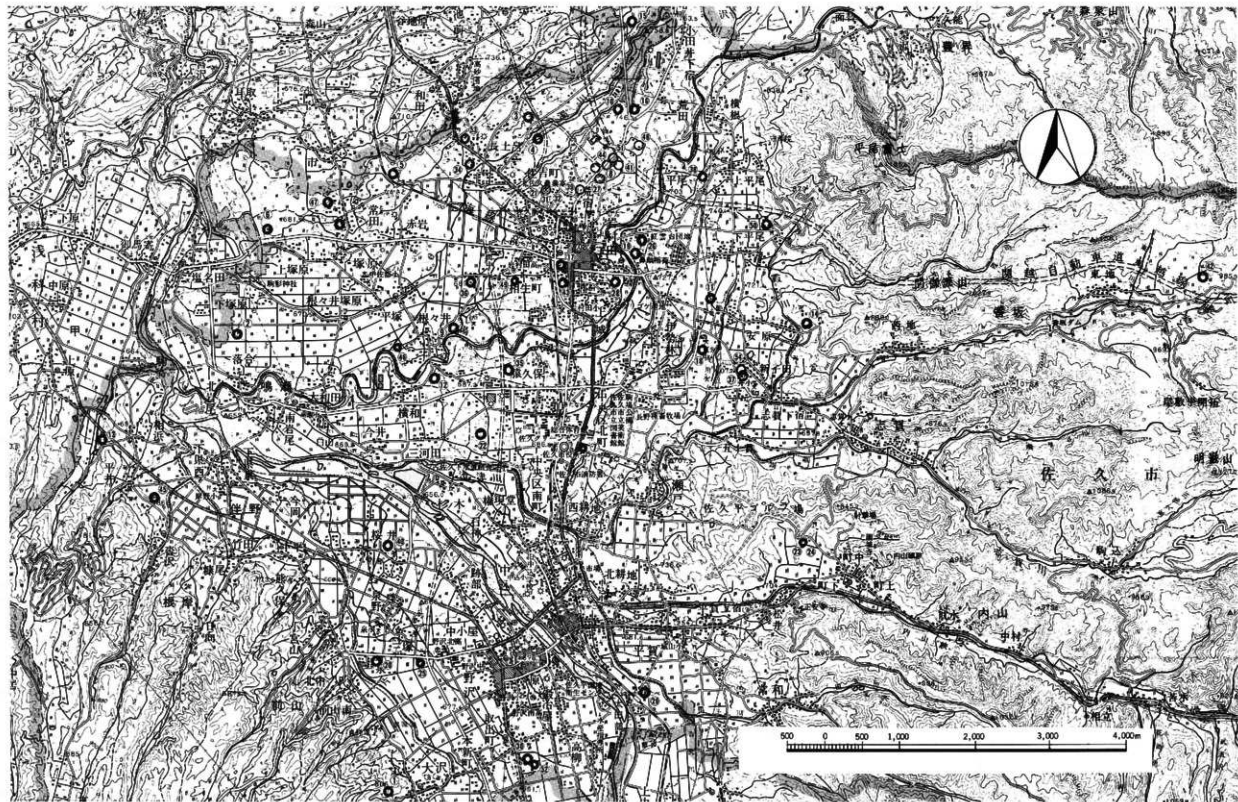
住宅の基礎工事のため地下80cm掘り下げたが、遺構は確認されず、遺物も出土しなかった。



戸坂遺跡群1調査全体図（1：1,000）

平成3年度市内道路発掘調査一覧表

No.	道路名	開発主体者	所在地	開発事業名	開発面積(㎡)	保護状態	調査期間	担当者
1	兜山道路1	相沢武男・高畑行所	大沢	宅地造成	2,078	試掘	H3.4.22	高村
2	尾塚道路1	鶴エントランスプロジェクト	鳴瀬	工場建設	3,319	試掘	H3.5.22	高村
3	上高山道路11	神澤勉雄	長上呂	貸し上げ建設	1,657	試掘	H3.7.24	羽毛田
4	上大林道路1	熊セキスイハイム	長上呂	住宅販売等	2,062	試掘	H3.8.3・5	林
5	三井和道1	東葉洋開発	長上呂	宅地造成	2,500	試掘	H3.8.6・7	高村
6	藤原道路	藤与志木林業	藤原	資材採場等	1,800	試掘	H3.6.18~9.25	高村
7	平尾道路	菊池昭	中込	テナントビル建設	654.8	試掘	H3.8.8	林
8	西市原道路2	森角淳	岩村町	事務所建築	1,441	試掘	H3.10.18	羽毛田
9	上馬沢道路1	鶴ナカシマ	根々井	共同住宅建築	568	試掘	H3.11.13	羽毛田
10	上曾根道路1	南山口商水	岩村町	貸事務所建築	1,794	試掘	H3.11.25	林
11	戸原敷道路1	柳重気電力千曲川電力所	安原	送電鉄塔建設	81	試掘	H3.11.22	林
12	根々井芝宮道路	鶴セキスイハイム	根々井	宅地造成進入路	945	試掘	H3.12.14~16・17	羽毛田
13	立石道路2	荻原地区土地整備組合	野岸	土地整備事業	4,707	試掘	H4.1.27~29	羽毛田
14	光明寺道路1	南新栄開発	安原	宅地造成	2,733	試掘	H4.1.7・8	林
15	曾根城道路	井サハウジック	小山井	宅地造成	3,493	試掘	H4.3.18・19	羽毛田
16	東曾根道路1	朝日木流通リース	岩村町	貸店舗建築	6,540	立会い	H3.8.19・23	林
17	柳定道路2	日本鉄道建設公団	岩村町	事務所建築	20	立会い	H3.8.20	羽毛田
18	熊谷反り道路	佐久市農業協同組合	新子田	花さき所建築	2,441	立会い	H3.10.2	林
19	機敷道路2	鶴ナカシマ	安原	宅地造成	1,419	立会い	H3.10.2	林
20	中道道路1	御日本通運上戸支店	南山	事務所等	180	立会い	H3.4.5~11	高村
21	琵琶坂道路X	北佐久農業高校	岩村町	クラブ部庫建築	150	立会い	H3.4.12	羽毛田
22	中原道路4	宮武俊	中込	宅地造成(個人)	139.27	立会い	H3.4.16	高村
23	人間道路2	原信義	内山	宅地造成(個人)	100.65	立会い	H3.4.22	高村
24	大間道路1	岩崎勝則	内山	宅地造成(個人)	90.92	立会い	H3.4.30	高村
25	辻道路1	金井とくよ	野沢	宅地造成(個人)	134.53	立会い	H3.6.5・6	高村
26	機敷道路1	白井操	安原	宅地造成(個人)	458	立会い	H3.6.22	羽毛田
27	赤坂外環道路1	茂木正博	岩村町	店舗建築	2,109.6	立会い	H3.6.25	林
28	下保濃下保濃2	祐新日本開発	岩村町	宅地造成	2,698	立会い	H3.6.5	林
29	久保川道路	春日一	大所部	宅地造成(個人)	126	立会い	H3.7.4	林
30	白柏台道路群2	竹内武人	取出	宅地造成(個人)	738	立会い	H3.7.10	林
31	琵琶坂道路Ⅲ	北佐久農業高校	岩村町	クラブ室建築	84	立会い	H3.7.15	林
32	琵琶坂道路Ⅳ	北佐久農業高校	岩村町	器具庫建築	30	立会い	H3.7.15	林
33	宮の上道路1	鶴タイロースンシニア	根々井	事務所建築	5,778	立会い	H3.7.19	羽毛田
34	向朝道路1	佐久市	長上呂	道路改良事業	367	立会い	H3.7.24	羽毛田
35	寺畑道路群3	柳共栄製作所	熊久保	上海建築	2,103	立会い	H3.8.8	林
36	上御田道路1	戸塚石立	岩村町	倉庫建築	800	立会い	H3.8.22・23	林
37	戸原道路群2	小平寛	新子田	住宅建築(個人)	657	立会い	H3.9.5	林
38	渡石道路1	鶴ミヤモリ	上平尾	宅地造成	8,563	立会い	H3.9.5	羽毛田
39	岩村山道路2	中沢正	岩村町	店舗造成	2,734.41	立会い	H3.9.11	羽毛田
40	平馬橋道路群1	牧野人	根々井	位牌堂建築	32	立会い	H3.9.17~20	高村・林
41	西赤坂道路1	学校法人佐久学園	岩村町	学生寮建設	296.81	立会い	H3.9.27	高村
42	木戸平り道路	日本道路公団	香取	A&Dトンネル	3,300	立会い	H3.10.2	林
43	上の城道路群1	中澤久夫	岩村町	共同住宅建築	749.27	立会い	H3.10.14	羽毛田
44	西赤坂道路3	渡辺春吉	岩村町	店舗併用宅造成	2,338.4	立会い	H4.1.21	林
45	かぶつた道路	ミツヤホーム鶴	根々井	宅地造成	8,682	立会い	H3.11.7・8	羽毛田
46	日向町敷道路	ミヤモリ鶴	根々井	宅地造成	1,013	立会い	H3.11.19	羽毛田
47	常山原敷道路群1	西軽井沢開発	常山	宅地造成	3,298	立会い	H3.12.3	林
48	西之間道路1	中澤厚史	岩村町	共同住宅建築	988	立会い	H3.12.24	林
49	宮の西道路	中澤真一・中澤ゆき子	岩村町	共同住宅建築	978	立会い	H3.12.24・25	林
50	方助久保道路	佐久市土木課	下平尾	市道2号改良	1,560	立会い	H4.1.16	小林
51	西赤坂道路4	佐久建設事務所	岩村町	県道併用事業	1,000	立会い	H3.11.26	林
52	白柏台道路群1	鶴平沼不動産	取出	宅地造成	1,234	立会い	H4.3.5	小林
53	助掛畑道路群1	佐久市土木課	長上呂	市道43号改良	250	立会い	H4.1.17	高村
54	戸原道路群1	中條勝長	新子田	住宅建築	430	立会い	H3.5.7・8	高村



1991年度 市内道路発掘調査位置図(1:50,000)

長野県佐久市

市内遺跡発掘調査報告書1991

1993年3月

編集・発行者 佐久市教育委員会

印刷所 佐久印刷所
